

第 149 回京都市中小企業経営動向実態調査結果

京都市では、市内の中小企業者の経営実態や経営動向を把握するため、四半期ごとにアンケート調査を実施しています。第 149 回（令和 5 年度第 3 四半期）調査を実施し、併せて「令和 5 年の企業経営実績と令和 6 年の業績見通し」についても調査しましたので、それぞれの結果を公開します。

<市内中小企業の景況について（別紙 1 参照）>

1 今期（令和 5 年 10 月～12 月期）実績

- ・ 今期の企業景気 DI は、全産業で+1.8 ポイント（50.7→52.5）。基準となる 50 ポイントを 7 期連続で上回る結果となった。コロナ禍から社会経済活動の正常化の進展による受注の増加など、改善・回復を示す前向きな意見が多く見られた。一方で、原材料価格の高騰や、担い手不足等の影響により、厳しい状態であるという意見も見られた。
- ・ 業種別では、製造業で+1.1 ポイント（48.9→50.0）。非製造業で+2.3 ポイント（52.3→54.6）。
- ・ 製造業については、「染色」「印刷」「窯業」「化学」「機械」の 5 業種で DI が上昇（他 3 業種は低下）。非製造業では、「卸売」「情報通信」「サービス」の 3 業種で DI が上昇（他 3 業種は低下）。
- ・ 観光関連※については、担い手不足を懸念する意見があり、DI は▲6.2 ポイント（80.8→74.6）となったが、修学旅行生や海外からの観光客が増え、業績が好調であるなど改善・回復を示す意見が多く見られ、引き続き、高い DI 値を維持している。

(1) 製造業（DI：50.0（前回調査比+1.1 ポイント））

➢ DI 上昇：5 業種（染色、印刷、窯業、化学、機械）

DI 低下：3 業種（西陣、金属、その他の製造）

【事業者の声】 「半導体設備関係が活況」（南区／化学）

「海外ユーザーの設備投資回復」（右京区／機械）

「前年同期に比べ売上高は上がっているが利益面で苦戦」（伏見区／金属）

(2) 非製造業（DI：54.6（前回調査比+2.3 ポイント））

➢ DI 上昇：3 業種（卸売、情報通信、サービス）

DI 低下：3 業種（小売、飲食・宿泊、建設）

【事業者の声】 「ネット販売が好調」（北区／卸売）

「エネルギー関連費用は増加しているが、運賃への価格転嫁ができています」（伏見区／サービス）

「価格高騰で消費マインドが低下し続けている」（中京区／小売）

<参考> 観光関連※（DI：74.6（前回調査比▲6.2 ポイント））

【事業者の声】 「コロナの影響がなくなりインバウンドも増えた」（中京区／小売）

「観光地に人は戻ったが、カフェ等店舗への販売は思ったより伸びない」（上京区／その他の製造）

「コロナが落ち着き観光シーズンを迎え、円安効果もあり観光客が増えた」（中京区／飲食・宿泊）

「人手不足により予約を制限せざるを得なかった」（中京区／飲食・宿泊）

※ 観光関連とは…観光客を対象とする製品を作る製造業、商品を扱う卸売業、小売業及びサービスを提供するサービス業のうち、観光関連の売上高が、総売上高の 25%以上を占める事業者を指す。

2 来期（令和6年1月～3月期）見通し

- ・ 来期の見通しについて、全産業の企業景気DIは、今期実績と比較して▲5.3ポイント（52.5→47.2）。コロナ禍からの回復を示す前向きな声もある一方、仕入高の継続や先行きの不透明さを懸念する声が見られ、基準値の50ポイントを下回った。
- ・ 業種別では、製造業は▲0.9ポイント（50.0→49.1）。非製造業は▲9.0ポイント（54.6→45.6）。
- ・ 製造業では、「西陣」「金属」の2業種でDIが上昇（他4業種は低下、2業種は横ばい）。非製造業では、「建設」の1業種でDIが上昇（他5業種は低下）。
- ・ 観光関連については、観光客の増加見込など一部で前向きな意見が見られた。一方で、原材料価格の高騰といった意見が多く、▲26.1ポイント（74.6→48.5）となり、基準値の50ポイントを下回った。

(1) 製造業（DI：49.1（今期実績比▲0.9ポイント）／2業種が上昇、4業種が低下を見込む）

- 【事業者の声】 「催事の増加」（上京区／西陣）
「観光の動向次第だが、買い渋りがある」（右京区／その他の製造）
「価格転嫁は行っていくが引き続き厳しい状況は続く」と予想（西京区／印刷）

(2) 非製造業（DI：45.6（今期実績比▲9.0ポイント）／1業種が上昇、5業種が低下を見込む）

- 【事業者の声】 「仕入単価の上昇と顧客の買い控え」（中京区／サービス）
「インバウンドが落ち着き、呉服業界が低迷」（中京区／卸売）
「受注減及び中国経済の減速」（下京区／卸売）
「毎月売上へのあった取引先の減少」（北区／情報通信）

<参考> 観光関連（DI：48.5（今期実績比▲26.1ポイント））

- 【事業者の声】 「観光客の増加が引き続き見込まれる」（東山区／その他の製造）
「コロナ禍収束ではあるが、不透明でもある」（左京区／小売）
「資材、工賃、経費の値上がりにより売れ行き不透明」（下京区／卸売）
「景気はコロナ前に戻らず、本年同様、来年も厳しい」（中京区／その他の製造）
「仕入単価の高騰」（伏見区／サービス）

3 当面の経営戦略

- ・ 当面の経営戦略として、「営業力の強化（59.9%）」を挙げる企業が、前回調査に引き続き最も多かった（前回調査比+4.6ポイント）。以下「人材確保・育成（56.3%）」、「生産・経営の合理化（30.8%）」、「新商品の開発・販売（27.6%）」であり、いずれも前回調査と同じ順位となった。

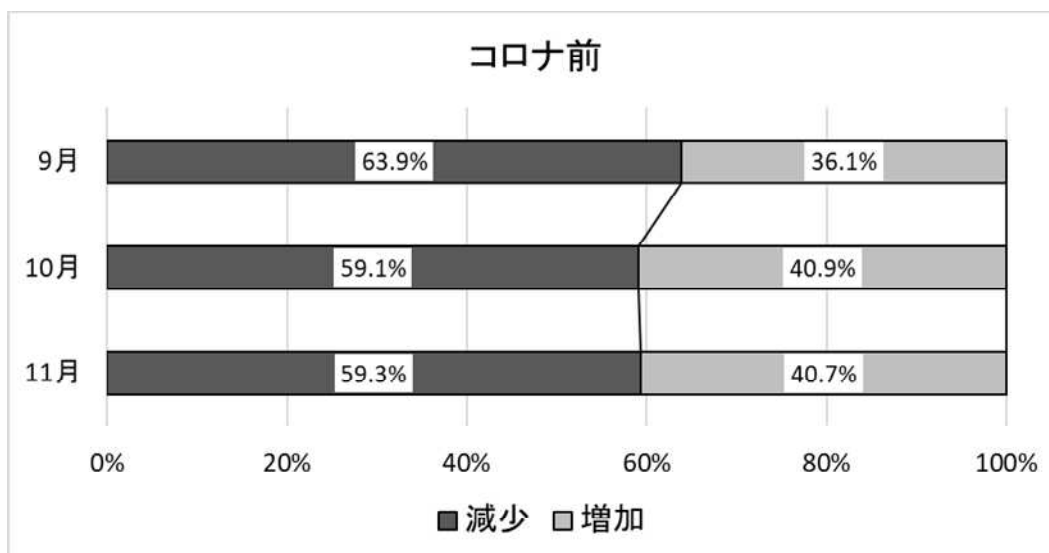
4 経営上の不安要素

- ・ 経営上の不安要素では、「人材育成（41.3%）」を挙げる企業が、3四半期連続で最も多かった（前回調査比+0.5ポイント）。以下「原材料価格上昇（36.1%）」、「売上不振（33.1%）」、「仕入値上要請（32.9%）」であった。
- ・ また、前回調査比で最も上昇した項目は「原材料価格上昇（36.1%）」であった（前回調査比+3.9ポイント）。

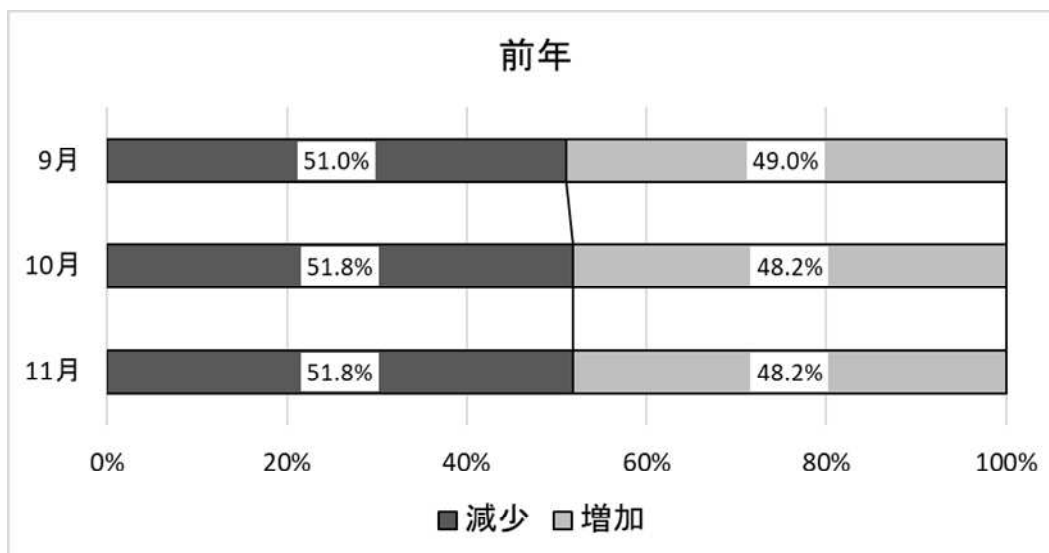
5 新型コロナウイルス感染症による売上の減少（令和5年9月～11月）

- ・ 企業の直近の売上（令和5（2023）年9月、10月、11月）について、約6割の企業が、コロナ前の令和元（2019）年の同月と比較して「売上が減少した」と回答した。
- ・ また、令和4（2022）年9月、10月、11月との比較では、「売上が減少した」と回答した企業が約5割（下図参照）。

<令和元（2019）年9月、10月、11月との売上比較に係る割合>



<令和4（2022）年9月、10月、11月との売上比較に係る割合>



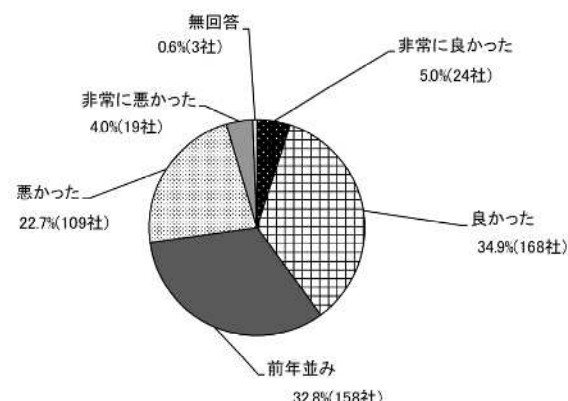
（参考）1 調査対象企業数800社。うち481社が回答（回答率 60.1%）

$$2 \left[\text{企業景気DI} = \frac{(\text{上昇、増加と回答した企業割合}) - (\text{低下、減少と回答した企業割合})}{2} + 50 \right]$$

<付帯調査：令和5年の企業経営実績と令和6年の見通しについて（別紙2参照）>

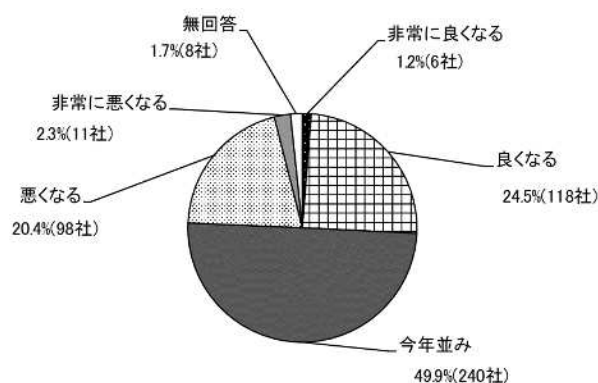
A 令和5年の業績（令和4年の業績との比較）は？

- ・ 「良かった」と回答した企業が34.9%（168社）と最も多く、以下「前年並み」が32.8%（158社）、「悪かった」が22.7%（109社）であった。
- ・ 業種別では、『染色、印刷、機械、その他の製造、小売、飲食・宿泊』は、「良かった」が最も多かった。『窯業、化学、情報通信、サービス、建設』は、「前年並み」が最も多く、『西陣』は、「悪かった」が最も多かった。『金属』については「良かった」と「悪かった」が同数、『卸売』については「前年並み」と「悪かった」が同数であった。また、『観光関連業種』は「良かった」と回答した企業が最も多かった（詳細は、別紙2のp19参照）。



B 令和6年の業績見通し（令和5年の業績との比較）は？

- ・ 「今年並み」と回答した企業が49.9%（240社）と最も多く、以下「良くなる」が24.5%（118社）、「悪くなる」が20.4%（98社）であった。
- ・ 業種別では、『西陣、染色、印刷、窯業、化学、金属、その他の製造、卸売、小売、情報通信、飲食・宿泊、サービス、建設』は、「今年並み」が最も多く、『機械』は、「良くなる」が最も多かった。また、『観光関連業種』は、「今年並み」と回答した企業が最も多かった（詳細は、別紙2のp20参照）。



C 令和5年の業績に影響を与えた要因及び令和6年の業績に影響を与えると予想される要因について

(1) 令和5年の業績に影響を与えたプラス要因は？

- ・ 「営業努力」と回答した企業が58.6%（219社）と最も多く、以下「国内景気」が23.3%（87社）、「新商品・新技術の開発」が18.2%（68社）、「新事業の展開」が11.8%（44社）であった。
- ・ 前年度同期調査との比較では、「設備投資」が13.2%→10.4%であった。

(2) 令和5年の業績に影響を与えたマイナス要因は？

- ・ 「その他原材料の高騰」と回答した企業が34.0%（146社）と最も多く、以下「国内景気」が22.6%（97社）、「消費動向」が20.3%（87社）、「雇用情勢」が19.1%（82社）、「物価動向」が18.9%（81社）、「原油価格の高騰」が17.2%（74社）であった。
- ・ 前年度同期調査との比較では、「原油価格の高騰」が25.7%→17.2%、また、「新型コロナウイルス感染症の影響」が44.0%→11.7%であった。

(3) 令和6年の業績見通しに影響を与えると予想されるプラス要因は？

- ・ 「営業努力」と回答した企業が50.7% (188社) と最も多く、以下「国内景気」が25.9% (96社)、「新商品・新技術の開発」が23.7% (88社)、「新事業の展開」が19.7% (73社)、「消費動向」が11.3% (42社) であった。
- ・ 前年度同期調査との比較では、「新事業の雇用」が11.8%→19.7%であった。

(4) 令和6年の業績見通しに影響を与えると予想されるマイナス要因は？

- ・ 「その他原材料の高騰」と回答した企業が35.5% (150社) と最も多く、以下「国内景気」が21.5% (91社)、「物価動向」が20.8% (88社)、「他社との競争」が19.9% (84社)、「雇用情勢」が19.6% (83社) であった。
- ・ 前年度同期調査との比較では、「消費動向」が20.3%→16.5%、また、「新型コロナウイルス感染症の影響」が11.7%→4.3%であった。

※ 以下Dは、Cで選択した項目(3つ以内)のうち最も影響の大きい要因について回答を求めた。

D 令和6年の業績に影響を与える要因のうち、最も影響の大きい要因について

(1) 令和6年の業績に最も影響の大きいプラス要因は？

「国内景気」と回答した企業が16.8% (20社) で最も多かった(前年度同期調査は8.6%)。理由としては、「インバウンドを含む観光客及び駅利用者数の増加による売上増となる」、「コロナ後の観光客などの人の動きの増」などが挙げられた。

(2) 令和6年の業績に最も影響の大きいマイナス要因は？

「その他原材料の高騰」と回答した企業が18.4% (45社) で最も多かった(前年度同期調査は21.7%)。理由としては、「鋼材の価格高騰分を反映できるかが不透明」、「建築材料の価格高騰、施工職人の人件費、職人不足での工事延期」などが挙げられた。

E 賃金水準について

(1) 令和5年の賃金水準(実績)については？

- ・ 「引き上げた」と回答した企業が73.0% (344社) と最も多く、以下「前年から据置き」が25.3% (119社) であった。「引き下げた」と回答した企業は1.7% (8社) であった。
- ・ 賃金水準の引上げ方法としては、「ベースアップ」と回答した企業が39.9% (132社) と最も多く、以下「ベースアップ+賞与・一時金の増額」が31.7% (105社)、「その他の賃上げ(定期昇給等)実施」が18.7% (62社)、「賞与・一時金の増額」が9.7% (32社) であった。

(2) 令和6年の賃金水準(予定)については？

- ・ 「引上げ予定」が60.3% (277社) と最も多く(令和5年の賃金水準(実績)と比較して▲12.7ポイント)、以下「据え置く予定」が28.1% (129社) であった。「引下げ予定」と回答した企業は1.3% (6社) であった。
- ・ 令和6年に予定している賃金水準の引上げ方法については、「ベースアップ」が39.6% (107社) と最も多く、以下「ベースアップ+賞与・一時金の増額」が25.9% (70社)、「その他の賃上げ(定期昇給等)実施」が23.3% (63社)、「賞与・一時金の増額」が11.1% (30社) であった。

F 今後、拡充・強化又は削減・縮小する予定の分野や部門は？

- ・ 今後、拡充・強化する部門は、「営業部門」が 39.9%（176 社）と最も多く、以下「企画・開発部門」が 26.8%（118 社）、「製造部門」が 19.3%（85 社）であった。
- ・ 一方、削減・縮小する部門は、「特になし」が 75.8%（260 社）と最も多く、以下「事務部門」が 12.2%（42 社）、「財務部門」が 5.8%（20 社）であった。

G 令和 6 年に向けた、経営全般における独自の取組や工夫は？

- ・ 多くの企業から、経営全体における独自の取組や創意工夫について、「新規販路を見つけるため、様々な展示会などに出展する」、「IT 化による製造工程の合理化」、「配送業務の効率化」などといった意見が寄せられた（詳細は別紙 2 の p17～18 に掲載）。